

BCS建築セミナー開催報告

日本の建築創造 システムを世界へ

天皇・皇后両陛下の御臨席のもと開催された開会式の様子。UIA大会の日本開催は初めて。「DESIGN 2050—災害を克服し、一丸となって新しい未来へ—」をテーマに掲げ7日間活発な議論がなされた。

©UIA2011 TOKYO Japan Organizing Board (JOB)



第一部の4名のパネリスト。

左上／神宮式年造営庁技術総監・中村光彦氏、右上／宮大工・小川三夫氏、左下／大成建設・森田仁彦氏、右下／元大林組京都迎賓館建設工事統括所長・水本豊弘氏（講演順）

日本初の世界建築会議

UIA二〇一一東京大会、第二四回世界建築会議が、九月二十五日から十月一日まで、東京国際フォーラムを中心に開かれた。UIA（国際建築家連合）は世界の建築家による職能団体で、一四〇万人を超える世界の建築家が参加する組織である。日本での大会開催は初めてである。東日本大震災等の影響が危惧されたが、約一一〇の国と地域から五、〇〇〇人以上が参加し、盛会裡に終了した。

社団法人日本建設業連合会（以下、日建連）は九月二十六日、BCS建築セミナーをUIA二〇一一東京大会の関連イベントとして、日本組織委員会（JOB）との共催で開催した。これは例年行っているBCS建築セミナーを拡大したもので、コーディネータに深尾精一・首都大学東京教授を迎えた。

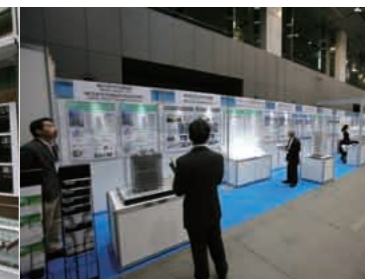
日本には古くから高度な建築技術を活かした建築創造システムがあり、時代を通して質の高い建築を生み続けてきた。セミナーは「日本の建築」のテーマのもと、古代の日本建築の起源から未来への展望までを通して探った。

第一部 「過去から現在へ —共生の心と匠の技術—」

第一部では、中村光彦氏（神宮式年造営庁技術総監）による「伊勢神宮式年遷宮の造営」、小川三夫氏（宮大工）による「棟梁の心」、森田仁彦氏（大成建設）による「五重塔の構造検証」、水本豊弘氏（元大林組京都迎賓館建設工事統括所長）による「桂離宮から京都迎賓館へ」の講演が行われ、それを受けて深尾教授の進行のもと建築家の枝川裕一郎氏、建築史家の後藤治工学院大学教授による鼎談が行われた。

講演ではまず、中村氏は、伊勢神宮の建築様式については、材料や構造がそのまま活かされた最もシンプルで究極的な均衡の姿であり、自然と建物との調和が実現されていること、式年遷宮は石造建築のように物理的に永遠性を求めるのではなく寿命が来たものを建て替えながら永遠の姿を求めること、そして常に作り替えることにより技術が伝承されることが特色であるとした。また、二百年計画で宮域林でヒノキを育成していること、旧社殿の古材が他の神社で再利用されるなどを紹介し、式年遷宮が、最新の優れたサステナビリティのシステムとなっていることを指摘した。

次に、古代からの伝統を受け継ぐ宮大工の小川氏は、師である西岡棟梁から学んだこと、多くの寺院の建設・修繕に携わる一方で後進の指導に当たった経験等を交えて、棟梁の心を披露し、法隆寺五重塔の軒の線に隠された工夫、薬師寺東塔と西塔復元での工夫の例を引きながら、その「心」の一端を紹介した。また、東大寺転害門に見る「木の使い方は育った方向角に使用」



上段右から／ロビー・ギャラリーにおける登録受付の様子。世界中から東京に数多くの建築家が集まった。中／地階・展示ホールでは、「第10回 すまい・建築・都市の環境展 ecobuild 2011」が行われた。左／地上広場・ガラス棟のガラス壁面には、「一万人の世界建築家展」パネルが展示された。

下段右から／公開プログラム・安藤忠雄氏による講演「若者に語る/建築とはなにか」。他にも多くの講演がなされた。中／大会メインテーマ「DESIGN 2050」を巡る3つのサブテーマ「環境」「文化」「生命」のもとに世界各国から数多くの論文が発表された。左／竹中大工道具館の協力により、カンナがけの実演等が行われた。



第一部鼎談の様子。4名の講演をうけ、首都大学東京教授・深尾精一氏の進行によって、建築家の枝川裕一郎氏と建築史家、工学院大学教授・後藤治氏によって「日本の建築のこころ」をテーマに鼎談が行われた。

などの、古代から伝わった口伝をいくつか紹介し、法隆寺をはじめとする古代の建築物が千三百年以上の生命を保った理由の一端を明らかにした。

森田氏は、現代の技術で新たに建てられた五重塔を紹介した。近年特に、伝統的な建築物の様式を現代の法規・技術基準に適合する形で実現する例が増えている。その具体的な検討として、構造検証のために解析用にモデル化、柱の傾斜復元力、貫による回転パネモデル、落とし込み板壁の変形性能を利用した筋かい状の軸方向パネ効果などをわかりやすく紹介した。



第二部ディスカッションの様子。深尾精一氏（前掲）のコーディネーターのもと、総合建設会社の未来を担う設計者6人によって、「環境調和型社会を拓くニッポンの先端技術」についてディスカッションを行った。

「ビル」、個人対応の環境制御による「スマートワークプレイス」等が加えられている。

大林組技術研究所本館は、研究員全員が集合する研究所の中心施設である。同技術研究所では、地震が来ても建物を静止させるスーパーアクティブ制震装置、必要な場所だけを効果的に空調するシステム、屋根面全面からの採光をはじめとして様々な先端技術が採用された。

水本氏は、日本の伝統建築の大きな分野である住宅と数寄屋で、現代に生きる伝統技術を紹介した。桂離宮御殿整備工事（昭和五十一年〜五十七年）では伝統的な仕上げの技法で建物を解体修理し、他方、狩野尚信作の襖は模写により復元する等の多彩な方策が採用されたことを紹介した。京都迎賓館建設工事（平成十三年〜十七年）では、現代の建築技術と、綴壁画、截金、蠟色漆塗りをはじめとする数々の伝統技術が融合していることを紹介した。そして、伝統技術の伝承のためには、現代建築においても伝統技術を取り入れた設計内容とするなど、建築界として、伝統技術に「傘を差す」べきである等の提言を行った。

講演につづいての鼎談で、枝川氏は、日本文化の特質に、素材を活かす扱い方、部分から全体を作りこんでゆく構成方法があげられること、後藤教授は、伝統技術が使われるために環境などいろいろな面から伝統建築を再評価する必要があること、諸外国では文化財に関する技術の確保のための制度・方策が整備されつつあること、古くから日本では大工が職人として尊敬されてきたこと、深尾教授は、技術の伝承が重要であり、また日本の建築の作り方に自然との共生が組み込まれていること、など様々な角度からの論議が行われた。そして、「民家であろうと、お寺であろうと、作っているのはみんな『職人さん』と認められていて、そういう人が建

築を作ってきたということに重要な点がある。それが今の日本の建設業につながっている。建設に携わる方々が、誇りを持って仕事をしているかどうか、いい建築ができるかどうかにつながる」とまとめがなされた。

第二部 「現在から未来へ」 「二〇二二年、サステナブル建築を考える」

第二部では、自然との共生に配慮された建築作品、なんばパークス、箱根ラリック美術館、慶應義塾大学日吉来往舎、ノリタケの森、佐川美術館、樂吉左衛門館が映像で紹介された後、環境調和型社会を開くニッポンの先端技術に向けて、未来を担う六人の総合建設会社の設計者が、自身の設計したサステナブル建築作品について講演した。

虎ノ門タワーズは、自社開発のオフィスと分譲マンションの複合プロジェクトであり、オフィス棟では、日本で最初に本格的にユニット型のダブルスキンが採用され、レジデンス棟では、アクティブ制震装置、長周期地震動対応のエレベーター運転システムをはじめとする先端技術が採用された。

清水建設技術研究所新本館は、二〇一〇年頃の無柱大空間研究施設であり、新築時、大架構造頭免震構造による高機能免震、地上と屋上の二か所の都市型ビオトープをはじめとする様々な先端技術が採用され、さらに、「スマート

TODA BUILDING 青山は、自社開発のテナントビルで、CO₂削減を実現するのが難しい中小規模の建築物にあって、ダブルスキントーンウォールに組み込まれた透過型太陽光発電パネル、地中熱利用の輻射空調システムをはじめとした先端技術を含め、五十の環境配慮技術が採用された。

大成建設技術センター本館は、築二八年が経過した既存研究施設の総合改修で、幅四メートルの「Creative Box」によって新たな研究施設の使用方を創出する一方、床ダクトAF床版、調光天井をはじめとして様々な先端技術が採用された。

日産自動車グローバル本社は、世界で活躍する日本の自動車会社の企業理念に通じる四つのテーマを設定し、既存都市空間への適応・共生、共生の相乗効果を発揮できるギャラリと公共道路の構成、多様な価値共生の効果を高めるワークプレイス、環境共生を実現するファサードエンジニアリング、として具現化されている。

これら作品紹介の後、深尾教授の司会のもと、講演者とのディスカッションが行われ、最後に「東日本大震災以降、自然を決して侮ってはならないことを痛感した。自然に負けてもいいけないが勝つてはいけない。それがまさに自然との共生でありサステナブル建築ではないか」とまとめられた。八五〇人を超える多くの人が参加した会場は、熱気に包まれたまま幕を閉じた。



日産自動車グローバル本社
発表者：白川裕信氏（竹中工務店）



大成建設技術センター本館リニューアル
発表者：関 政晴氏（大成建設）



TODA BUILDING 青山
発表者：鎌摩堂淳氏（戸田建設）



大林組技術研究所本館
発表者：大西宏治氏（大林組）



清水建設技術研究所新本館
発表者：神作和生氏（清水建設）



虎ノ門タワーズ
発表者：仙波武士氏（鹿島建設）